

踊 共二

教授

リベラルアーツアンドサイエンス教育センター

名 称：EARLY ANABAPTISM IN GLOBAL PERSPECTIVE Past, Present,  
and Future at 500 Years

開催場所：Elizabethtown College, Pennsylvania

開 催 日：2025年7月22～24日

<概要>同大会の初日(7月22日)に The Japanese Clandestine Christians in the Early Modern Period in Comparison with the Anabaptists in Europe と題する研究発表を行った。宗教的迫害を受けた東西世界の少数派(日本のかくれキリシタンとヨーロッパの再洗礼派)が「隠れる」なかで生みだしたものの共通性について報告した。とくに暴力的抵抗を断念して殉教の死を選ぶ精神を強める一方、信仰の否認による処刑・処罰の回避という実際的な生き残りの戦略(かくれキリシタンが「踏絵」を踏み、再洗礼派が獄中で「復讐断念誓約」を行うさいに公認教会への忠誠を誓うなど)が共通項として確認できるという主張を展開し、主要な事例を挙げた。報告後は他のセッションに参加した。それによってアメリカ、カナダだけでなくドイツやスイスから参加した研究者たちとも交流ができた。また主催者側(The Young Center for Anabaptist and Pietist Studies)とは報告内容を寄稿する媒体について協議することができた。

## 踊 共二

教授

リベラルアーツアンドサイエンス教育センター

名 称：日本ルター学会 2025 年度学術大会

開催場所：日本福音ルーテル東京教会

開 催 日：2025 年 11 月 29 日

<概要> 「17 世紀チューリヒの再洗礼派：改革派信徒との交流」というタイトルの報告を行った。その趣旨は以下のとおりである：近世ヨーロッパにおいては、たとえば「聖職者の大喧嘩」(Geistlicher Rauffhandel, o.O., ca.1598/1619) や「仔牛の肉にオレンジジュースを添えて食べるのが美味しい」(Dis Kalff fein ist zu essen mit safft//Von Orangen, 1569) もしくは「いろいろな意見の人たちのいる食堂」(Cucina opiniorum, s.l. 1600s) などにみられるように、聖職者(知識人)たちが教義の違いゆえに争い、または無視しあっていることを揶揄する作品(文字情報を加えた銅版画や油彩画)が数多く公にされている。しかし一般信徒の世界では教派間の「溝」はそれほど深くはなかった。とくにエッセンシャルワーカーと呼びうる外科医(治療師)や産婆や獣医師については、教派の違いを超えた交流があることを示す一次史料があらたに翻刻されている。たとえば 17 世紀のチューリヒには再洗礼派の治療師が逮捕後に赦免され、患者たちを診つづけるようにとの「判決」を受けることさえあった。こうしたことがわかる新しい史料集は、たとえば以下のようなものである。

Quellen zur Geschichte der Täufer in der Schweiz. Fünfter Band: Kanton Zürich 1530–1609. Unter Mitarbeit von D. Dettwiler, hg. von Chr. Scheidegger und T. Jammerthal, Zürich 2025.

Quellen zur Geschichte der Täufer in der Schweiz. Sechster Band: Kanton Zürich 1610–1636.

Unter Mitarbeit von D. Dettwiler, hg. von Urs B. Leu, T. Jammerthal, Zürich 2025.

**李 天舒**

准教授

リベラルアーツアンドサイエンス教育センター

名 称：The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2025  
(Pacifichem 2025) 環太平洋国際化学会議 2025

開催場所：Hawaii Convention Center, Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach  
Resort, Sheraton Waikiki Beach Resort, Sheraton Princess Kaiulani  
Waikiki Beach

開催日：2025年12月15日（月）～20日（土）

環太平洋国際化学会議（Pacifichem）はカナダ（CSC）、日本（CSJ）、アメリカ（ACS）、ニュージーランド（NZIC）、オーストラリア（RACI）、韓国（KCS）、中国（CCS）の7化学会が共同で主催する大規模な国際化学会議である。5年ごとにハワイのホノルルで開催され、化学および関連科学分野における最新の研究成果の共有や国際交流を目的としている。Pacifichem 2025には、Analytical (ANA, 34)、Biological (BIO, 27)、Computational & Theoretical (CTH, 17)、Inorganic (ING, 29)、Macromolecular (MAC, 25)、Materials (MAT, 29)、Organic (ORG, 27)、Physical (PHY, 24)、Chemistry and Engineering for Sustainability (CES, 44)、Chemistry for Life Science and Health Care (CLH, 31)、Educate, Communicate and Translate (ECT, 11) の11トピック領域にわたる298のシンポジウムが含まれていた。各領域のシンポジウム数から見ると、地球環境の保全と社会の持続的な発展に向けた化学と工学の学際的な研究分野（CES）はより多くの注目を集めていることが分かる。

筆者は、シンポジウム [MAT027] Self-Assembled Biofunctional Nanomaterials において、題名“*Intracellular events and immune responses influenced by the hydrocarbon moieties of lipid-based nanocarriers*”との研究成果を発表した。また、早稲田大学大学院先進理工学研究科・武岡研究室との共同研究である“*Gene editing through Lipid Nanoparticles delivery of CRISPR/Cas9 using Lysine-based cationic lipid*”は、ポスターセッション *Lipids on the Move: From Membrane Biophysics to Synthetic Lipid Nanoparticles and Artificial organelles* において発表された。